



第1回 日本医師会／先進医療技術工業会共催シンポジウム
The 1st Japan Medical Association, AdvaMed Joint Symposium

「活気ある国家：生きがいの創出」

革新医療による、経済成長、生産性向上、
および医療費削減

“Vibrant Nation: Realizing the Fullness of *Ikigai* in Japan”

The Role of Health Innovation in Delivering Growth,
Productivity and Cost Savings

報告書 Report

2017年4月26日 10:00～12:00

April 26, 2017. 10:00～12:00

ザ・キャピトルホテル 東急

The Capitol Hotel Tokyu

協賛：一般社団法人米国医療機器・IVD工業会

後援：健康保険組合連合会、日本医療機器産業連合会

プログラム

開会挨拶 4

公益社団法人 日本医師会会長 横倉 義武

健康保険組合連合会副会長 専務理事 白川 修二

優れた医療機器を国民に迅速かつ安全に届けるための議員連盟会長 衆議院議員 鴨下 一郎

内閣府特命担当大臣(地方創生、規制改革) 衆議院議員 山本 幸三

開会にあたって 6

エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)による新たな調査

AdvaMed理事会役員、Terumo BCT Inc, President & CEO デビッド・ペレス

基調講演 7

EIUスタディの結果は米国で行ったMilkenスタディの結果と類似

ミルケン研究所(カリフォルニア州サンタモニカ)統括研究官 ロス・デイヴオール

パネルディスカッション – 臨床・医療行政・患者の観点より 8

座長 医療経済研究機構所長 西村 周三(社会保障審議会会長)

東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座主任教授 村山 雄一

横浜市立大学医学部内分泌・糖尿病内科教授 寺内 康夫

厚生労働省保険局長 鈴木 康裕

NPO患者スピーカーバンク理事長 香川 由美

開会挨拶



横倉 義武

公益社団法人日本医師会会長

シンポジウムの開催に当たり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

このシンポジウムは、アメリカに本部を置きます先進医療技術工業会(AdvaMed)と日本医師会の共催による初めてのケースで「活気ある国家、生きがいの創出、革新医療による経済成長、生産性向上及び医療費削減」をテーマとしております。

現在、そして将来に目を向けますと、我が国は高齢社会という変革期とも言うべき時代に立って、医師は医療の原点に立ち返り、健康長寿社会をつくり上げ、かつ継続的に支えていかなければなりません。人口の高齢化に伴い、社会保障費は医療・介護等を中心に今後も増加することが見込まれますが、持続可能な社会保障のためには、財政主導ではなく、我々医療側から時代に即した改革、医療イノベーションに支えられた、過不足ない医療提供ができる適切な医療を提言していかなければなりません。

「医療は消費」であると位置づける意見がありますが、社会保障と経済は相互作用の関係にあります。経済成長が社会保障の財政基盤を支え、他方で社会保障の発展が生産誘発効果や雇用の誘発効果などを通じて日本経済を下支えしています。

そして、医療の拡充による国民の健康水準の向上が経済成長と社会の安定に寄与していくことになり、国民が安心して老後を迎えられるようにするためにも、社会保障を充実させる必要があります。子育てや老後に不安を抱える国民に安心を示すということは、経済成長を取り戻す出発点でもあります。

また、「高齢者の生きがいづくり」による健康寿命の延伸も重要であります。高齢者が社会参加をして、「社会から支えられる側」から「社会を支える側」になることが、一億総活躍社会実現のための一つの重要な鍵となります。

国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げてきた我が国の医療システムが、世界が経験したことのないこの高齢社会を「安心」へと導く世界モデルとなり、このすぐれた医療システムを世界に発信することで、世界中の人々の幸福の実現に貢献をしていきたいと思っております。

本日のシンポジウムが日本の今後の社会を考え、その政策を実践していくための重要な機会となるよう心から祈念をいたしましてご挨拶とさせていただきます。



白川 修二

健康保険組合連合会副会長
専務理事

私どもは保険者ですので、日ごろから医療界あるいは医療提供側に値段を安くしろ安くしろといつも叫び続けています。このたび、そのお相手の日本医師会と先進医療技術工業会(AdvaMed)の後援をするということは、我々にとって非常に珍しいケースです。

横倉会長からのお話にもありましたとおり、日本の皆保険制度、これは「世界に冠たる」とよく言われる、非常に世



鴨下 一郎

優れた医療機器を国民に迅速かつ安全に届けるための議員連盟会長
衆議院議員

先ほど横倉会長、そして白川先生からのお話にもありましたが、活気ある国家と生きがいの創出。この大変かけ離れた2つの命題をどのようにつないでいくかは、革新医療による経済成長です。これは、医療機器が一つの大きな成長分野だろうと思っており、これを促進していくためにどのような環境を整



山本 幸三

内閣府特命担当大臣(地方創生、規制改革)
衆議院議員

地方創生、規制改革、国家戦略特区を担当しております。今日のこのシンポジウムは、まず何とんでも医師会と健保連が席を並べ、しっかり協力しているという極めて珍しいシンポジウムであります。それほど日本の医療の現場は厳しく、困難な状況になってきています。もう敵味方と言っている

界的にもすぐれた仕組みであり、これをもって日本の安定、国民生活の安定、あるいは経済成長の基盤になっているという認識は、私どもも同じです。

今般AdvaMedと日本医師会の方で企画したこのシンポジウムは、医療技術の正しい評価、それをベースにした経済成長、あるいは国民生活、労働生産性の向上をもテーマにしています。そういったことまで幅広く議論をしていきたいという考え方に、我々は賛同し後援をするということに至ったわけでございます。

本日のシンポジウムが、国民が将来の皆保険制度を考える一つのきっかけになればということをご期待申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

えるか。これがまさに立法の中に託された我々の考えでした。

同時に、医療費を削減していくという命題も我々は背負っているわけです。薬、あるいはさまざまな治療法で解決できない部分を画期的な革新的な医療機器によって、加えて、効率的なすばらしい治療が行われることによって、国民の皆さんのQOLを高め、医療費を削減する。これが医療経済的に寄与するものと思っております。

単に苦しんでいる患者さんのQOLを上げ、少しでも穏やかに、楽に生活してもらうということだけではなく、それを超えて、医療機器を使うことによって、その人の生きがいをもう一度取り戻すところまで高めていけたらと思っております。

ような時代ではない、それを乗り越えていかなければいけない、そういう状況になってきていることを示していると思います。その意味で、大いに期待しているところであります。

規制改革というのは全国一律に改革をやる取り組みなのですが、規制の中には岩盤規制というのがありまして、一気に全国的にすることがなかなか難しいことがありますので、国家戦略特区という、地域を区切ってまずは実験的にやってみようということで取り組んでおります。しっかりと医療の世界における、あるいは医療機器の世界におけるイノベーションを応援し、安定した日本の医療制度というものを確保していきたいと思っております。

開会にあたって

「エコノミスト・インテリジェンス・ユニット（EIU）による新たな調査」



デビッド・ペレス

AdvaMed理事会役員、Terumo BCT Inc, President & CEO

エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)による新たな調査結果により、これらの技術が健康転帰を改善し、初期投資を計算に入れても、全体として日本経済に費用節減効果をもたらすことが明らかになった。認められたのは主に以下の4つの効果。

- (1)入院期間の短縮、障害の軽減、早期回復による労働参加と労働生産性の向上。
- (2)死亡率および罹患率の低下による生産年齢の延長。
- (3)早期の疾患発見と有効な治療による二次的な疾患にかかる医療費の削減。
- (4)活動性と運動能力の獲得によるより自立した生活、およびそれに伴う介護者の職場復帰。



患者当たりの年間平均節減額(2016年)

疾患	医療技術	患者当たりの平均費用節減額 (日本円 米ドル)
脳血管疾患	カテーテルによる頸動脈血管造影	¥83,935 \$804
	金属メッシュケージ：ステントレトリバー	¥649,378 \$6,217
筋骨格疾患	二重エネルギーX線吸収測定法	¥24,347 \$233
	人工股関節置換術—人工股関節インプラント	¥2,932,054 \$28,071
糖尿病	HbA1c検査キット	¥113,123 \$1,083
	インスリンポンプ	¥65,115 \$623
肺癌	低線量スパイラルCTスキャン (CTスキャナ)	¥40,299 \$385
	体幹部定位放射線治療 (SBRT) 用のリニアアクセラレータ (LINAC)	¥448,967 \$4,298

基調講演

「EIU スタディの結果は米国で行った Milken スタディの結果と類似」



ロス・ディヴォール

Milken研究所（カリフォルニア州サンタモニカ）統括研究官

日本を対象としたEIUスタディの結果は、米国で行ったMilkenスタディの結果と類似しており、医療技術への投資によって経済的利益が大幅に増加することが示された。

先端医療への投資は、「ゼロサム」（医療への投資が増えると、消費者の資金的な余裕がなくなる）ではなく、むしろ米国では、投資により年間230億ドル以

上GDPが増加し、70億ドル以上税収が増えている。労働生産性の向上、GDPのプラス転換、労働人口の枯渇からの転調は、経済成長および競争力の強化につながった。

より効果的な診断と治療によって入院の必要性が減り、誰にもメリットがある強固な社会が構築され、国民にはより活気ある豊かな生活がもたらされる。

Milkenスタディで評価したテクノロジー

疾患	医療技術	目的
1) 糖尿病	i) インスリンポンプ	疾患管理
2) 心疾患	i) 血管形成術 ii) ペースメーカ iii) 心電図 iv) 左室超音波検査 v) 胸部X線検査	早期発見／疾患管理／治癒
3) 筋骨格疾患	i) 人工股関節置換術 ii) 骨スキャン（MRI）	早期発見／疾患管理／治癒
4) 結腸直腸癌	i) S字結腸鏡検査 ii) 直腸鏡検査	予防／早期発見

医療技術の対象となる患者／介護者一人当たりの平均年間医療費節減額

2008年～2010年（\$）

テクノロジー	治療費	間接的影響	合計
インスリンポンプ	607.7	5,278.0	5,885.8
心疾患の診断と手術	-4,533.7	6,464.0	1,930.3
MRIおよび人工股関節置換術	-3,887.3	28,405.2	24,517.9
結腸鏡／S字結腸鏡検査	8,840.7	141,524.2	150,364.9

出典：医療費支出パネル調査、全国健康面接調査、Milken研究所

パネルディスカッション

— 臨床・医療行政・患者の視点より



座長

西村 周三

医療経済研究機構所長
(社会保障審議会会長)

私は、今までこういうディスカッションは聞いたことがなかった。今回、特に「生きがい」というキーワードに魅せられてパネルの司会を引き受けた。経済界と医療界のコミュニケーションが、日本では必ずしも十分ではな

い。経済界と医療界のコミュニケーションが円滑になり、日米の協力が進むことによって、医療技術が発展していくことを望む。

「生きがい」という言葉が、英語でも「Ikigai」という表現であらわされていた。これは、これからの日本にはおそらく医療の意味でいくつか伸びる余地がありつつも、最先端を行っているということである。次の医療のテーマが「生きがい」であろうということを示唆していると思った。

次の医療のテーマは「生きがい」—— 西村



パネリスト

1

村山 雄一

東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
主任教授

医療費削減も大事だが、日本発の医療機器をどんどん開発して世界へ広げることができ、医療のデバイスで税収をふやすことができれば、問題解決の一端になる

のではないかと考えている。

脳梗塞は寝たきりの原因の一番である。ステント型のリトリーバーを使用すると80～90%の患者は助かる。ところが、そういった技術がある病院に患者がたどり着かない。その結果、患者は代替医療が必要になる。ITを使ったインフラの整備が必要だ。医療費削減も大事だが、税収をふやすことも非常に重要である。

医療のデバイスで税収をふやす。—— 村山





パネリスト
2

寺内 康夫

横浜市立大学医学部
内分泌・糖尿病内科教授

糖尿病にかかわる者は、そこを意識しないとけない。ただ血糖値がいいというだけでは不十分。健康寿命を延ばして、健康な人と同じくらい長生きでき、QOLを維持できる。こういう視点を私たちはいつも持つようにし

ている。

糖尿病の薬さらには医療機器はどんどん進化している。特にインスリンポンプから得られる利益は大きい。単に血糖値を下げるだけでなく、健康寿命を延ばしてQOLを維持する方向に変わってきているということを強調したい。医療機器を「迅速に」患者さんに届けていくことは非常に重要だ。

健康寿命を延ばし、健康な人と同じくらい長生きする。—— 寺内



パネリスト
3

鈴木 康裕

厚生労働省保険局長

厚生労働省は費用対効果分析を重要視している。今までは医薬品や医療機器を商品化するに当たってのコストに着目して値段を決めてきた。しかし、今後はそれに加えて、それぞれの製品が患者にどのような価値を持つか

というバリューをもとに価格をつけるということも考えていきたい。効果は死亡率だけで評価すべきではない。

生産性の増減や社会に対する費用をどう考えるのかということも含めて考えなければならない。それぞれの製品が患者さんにどのような価値を持つかというバリューをもとに価格をつけるということも、この費用対効果の中で考えていきたいと思う。

製品のバリューをもとに価格をつける。—— 鈴木



パネリスト
4

香川 由美

NPO患者スピーカーバンク理事長

教職についていたが、血糖コントロールが難しく退職した。しかし今は、インスリンポンプのおかげで血糖コントロールが容易になり、合併症の悪化がとまり、健康な生活を送れるようになった。そして自分も人の役に立ちたいと思えるようになった。インスリンポンプが保険適用

になったのは2000年だが、2005年まで存在を知らなかった。患者には情報が必要だ。

体調がよくなり、踏み出す元気が出てきたので、また社会参加できるようになった。こうやって働いたり社会参加できるようになると、納税する側に回ったりできるかなと思う。

私にとって生きがいは、自分を活かすこと、人に必要とされること、それから可能性に挑戦できること、この3つではないかと感じている。

社会参加で、納税する側に回る。—— 香川



先進医療技術工業会

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-15-11 第12天香ビル1階103